

一般選抜 試験問題「理科」化学範囲の誤植とその対処について

令和4年度入学者選抜試験問題において下記の誤りがありました。これらの訂正は試験時間内に口頭ならびに板書にて行っていることから、問題は有効として通常採点を行うものとなりました。

令和4年1月28日

1 問7 次の①～⑤の反応のうち、酸化還元反応でないものとして最も適切なものを一つ選びなさい。

- ① $2\text{H}_2\text{S} + \text{SO}_2 \rightarrow 3\text{S} + 2\text{H}_2\text{O}$
- ② $2\text{H}_2\text{O}_2 \rightarrow 2\text{H}_2\text{O} + \text{O}_2$
- ③ $2\text{Cl}_2 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{HCl} + \text{HClO}$
- ④ $\text{CuO} + 2\text{HNO}_3 \rightarrow \text{Cu}(\text{NO}_3)_2 + \text{H}_2\text{O}$
- ⑤ $\text{Cu} + 2\text{H}_2\text{SO}_4 \rightarrow \text{CuSO}_4 + 2\text{H}_2\text{O} + \text{SO}_2$

上記の設問において、③の化学反応式（下線部）は、正しくは「 $\text{Cl}_2 + \text{H}_2\text{O} \rightarrow \text{HCl} + \text{HClO}$ 」となります。

5 次の文章を読み、下の問1～3に答えなさい。

（前段落省略）

タンパク質水溶液に濃硝酸を加えて熱すると「ア」色になる。さらに、冷却後にアンモニア水を加えて塩基性になると「イ」色になる反応をキサントプロテイン反応という。タンパク質水溶液に水酸化ナトリウム水溶液を加えて塩基性にした後、少量の硫酸銅(Ⅱ)水溶液を加えると「ウ」色になる反応をビウレット反応という。また、アミノ酸やタンパク質の水溶液にニンヒドリン水溶液を加えて温めると「ウ」色になる反応をニンヒドリン反応という。

（後段落省略）

上記の段落中で空欄「ウ」が二か所に存在しますが、5行目にある二つ目の「ウ」（下線部）は、正しくは「エ」であり、段落中ではア～エが順番に一か所ずつ配置されることとなります。

令和4年1月29日

5 問1 下線部について、次の(a), (b)の反応が起こる酸素と基質の組合せとして最も適切なものを、下の①～⑧のうちから一つ選びなさい。

上記の問題文では「酸素」（下線部）となっていますが、正しくは「酵素」となります。

以上